はじめに

教師になる前に生徒指導・キャリア教育について十分学んでいないという声を聞く。さらにキャリア教育等という新しい言葉まで出てきて困惑しているという声も。単位数も少なく、多くのことを学ばなければならないこの分野に関しては、とまどう人たちが多くいて当然といえる。しかし、どの分野に関してもいえることだが、一度学んだからといってそれで十分だとはいえない。

この『生涯学習時代の生徒指導・キャリア教育』は、まさしく学び続ける人のための教科書として作られた。新しい要素が次々加わるが、変わらない本質もある。私たちは、何を学び、何をすればいいのか。生徒指導、キャリア教育の中心となる概念「一人ひとり」にみられるように、読者の一人ひとりが、学び続けるために、跳躍する踏み台になればと作られたのがこの本である。科学的研究に基づいた理論から、執筆者の経験知まで、生徒指導とキャリア教育に関する知見が詰められている。

読者諸氏の独自の哲学の上に独自の実践をしていただきたい。読者も一人ひとり異なるように、指導、支援、援助をうける児童、生徒、学生を含む若者たち、さらに成人も一人ひとり異なる。一人ひとりの成長のために役立てていただきたい。

本文にも掲載したが、教育学者の竹内義彰は「人間を真に生かす方法・手順を持つことは、人間についての深い洞察と豊かな愛情を持った人間においてのみ可能だからである。つまり人間を生かすためには哲学がなければならないのである」と述べている。個人が独自の哲学をもって生徒指導・キャリア教育を実践していただきたい。生涯学習時代の今日、もう一つ付け加えるならば、常に学び成長していく人間においてのみ、人間を真に生かすことが可能ということもできる。読者諸氏も常に学び続け、独自の方法と手順を確立していただきたい。本書をスタートとして、様々な本を読み、さらに啓発的経験を積み重

ね生徒指導・キャリア教育を深めていっていただきたい。読者諸氏が生涯学習時代の生徒指導・キャリア教育を創り出していただきたい。

執筆者の橋本仁美氏には、編集の手伝いもしていただいた。自己の能力を伸ばし、社会に羽ばたくことのできる子どもを思い、編集に情熱をかたむける若い彼女の姿に、日本の未来の輝きを見ることができた。生涯学習時代を生きる我々は、常に学び続け、個人の能力が最大限度まで生かされる生涯学習社会を創ることができればという思いを強くした。また編集・校正では石本奈都子氏にも多くの時間を割いていただいた。心より感謝申し上げます。

本書を作るにあたり、お世話になった教育出版の阪口建吾氏に厚く御礼を申し上げます。

西岡正子